

4 高橋 由一 ことひらやま えん ぼう ず 《琴平山遠望図》



由一さんの《琴平山遠望図》は、香川県の金刀比羅宮のある山を描いたんですよね。濃密な色づかいですね……！　　そういえば由一さんは、日本で初めて本格的に油彩画を描いたんですよね。



そうだ。わしは幕末から明治のはじめに、西洋人から油彩画を学んで、その画期的な技法を広めようとしたのだ。



行動力がありますね……！　　由一さんは、富士山や江の島のように、江戸時代に描かれていた観光名所を描いてますよね。



そのとおり。だから観光地のランドマークが中央に描かれているだろう。伝統的な構図を受け継いでいるんだ。



そうすると、由一さんの名所風景は、私たちがイメージする風景画とはちがうのでしょうか。



そうだな。わしより少しあとの1900年頃に、定番のランドマークが描かれるような観光地とはちがう、「風景」と名付けられた風景画が登場するようになるんだ。詳しくは展覧会を見るとわかるはずだ。



江戸時代から明治・大正・昭和と、時代によって風景の見方が変わってくるんですよね。実際に絵を見て、考えてみたいと思います！



高橋由一《琴平山遠望図》明治14年（1881）金刀比羅宮